

政策	43 健康づくりの充実						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	市民の健康を保持するための総合的な取り組みや意識の啓発を図るとともに、妊娠・出産・乳幼児期を通して親と子の健康を確保する。						
成果指標	1 健康づくり対策に対する市民満足度... 80.0%(現状値60.90%) 2 標準化死亡比(SMR)がん ... 95.0 (現状値97.10%) 3 標準化死亡比(SMR)心疾患 ...100.0 (現状値117.70%) 4 標準化死亡比(SMR)脳血管疾患 ...100.0 (現状値141.20%)						
目標達成状況		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標1 [%]	予定				80.00	
		実績	0.00	0.00	0.00		
	成果指標2 []	予定	99.80	98.60	97.40	96.20	95.00
		実績	104.70	105.50	103.30		
	成果指標3 []	予定	113.30	110.00	106.70	103.40	100.10
		実績	113.20	114.10	112.90		
	成果指標4 []	予定	140.60	130.50	120.40	110.30	100.20
実績		156.70	151.30	138.20			
トータルコスト (千円)	予定	1,517,002	1,526,014	1,612,738	0	0	
	実績	1,412,030	1,535,136	1,612,738	0	0	
内部評価	貢献度	乳幼児期から健康づくりを支援し、感染症対策を行い、検診や教室等による病気の早期発見・健康増進を図ることは、健康で生きがいを持てるまちづくりに大きく貢献する。					
	達成状況	結果指標としている標準化死亡比については、3項目とも昨年、一昨年度を下回り、目標は達成できてはいないが改善の傾向がみられる。					
	課題	短期では新型コロナウイルス感染拡大防止対策が必須。長期としては、特に脳血管疾患死亡比が高いため、基礎疾患対策について重点的に取り組んでいくことが必要。					
	取組方針	関係団体等と連携を図りながら、予防接種を始めとする新型コロナウイルス感染拡大防止対策及び健康増進計画における各重点領域において健康づくり支援を行う。					
外部評価	単位施策の成果指標となっている国民健康保険人間ドック受診者数や特定健康診査受診率、健康教室等の参加者数など、コロナ禍の影響もあり大きく数字が減っているとのことであるが、人間ドック受診は早期の疾病対策にもなることから、コロナ禍であっても必要なものとして、周知が必要であると感じる。生活習慣病の予防では、食生活が重要であるので、市として、食生活改善レシピの作成や食生活改善を目標とするキャンペーンなどを行ってほしい。また、市では、以前、母子保健推進員が任命されており、活動を行っていたが、現在はいないと思われる。いない理由として、専門性等もあるとのことであるが、地域の中に相談できる人がいることは重要であると思われるので、地域の中で活躍する方を育成していくことも必要であると考え。						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称			トータルコスト(千円)	達成度	
	4303	母子保健の充実			268,638	98	
	4301	予防対策の強化			916,245	73	
	4302	市民の健康づくり支援			427,855	72	

基本施策評価表 補表

施策	43 健康づくりの充実		
区分	妥当性	妥当	健康増進法等法令で市が実施すべき事業であり、健康づくりを推進するため妥当である。
	コスト削減の余地	有	事業の統合化を図ってきており、内容を検討することによってコスト削減の余地はある。
	受益者負担	適正	健康づくりは誰でも取り組めることが必要であり、受益者負担を求めることは好ましくないため適正である。
	上位貢献度	有効	健康づくりを充実させることは、健康で生き生きとした生活につながることから、貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	健康づくりを総合的に推進している類似の事業はない。
	成果向上の余地	有	成果指標のうち目標値が達成できていない内容については、強化して取り組むことにより、成果向上の余地がある。
内部評価	貢献度	本市では壮年期の死亡率が国や栃木県と比較し高い状況であり、乳幼児期から早期に健康づくりを支援し、感染症対策等を行い、健診や教室等による早期発見・健康増進等を図ることは、健康で生きがいを持てるまちづくりに大きく貢献する。	
	達成状況	成果指標としている標準化死亡比については、3項目とも昨年、一昨年度を下回り、改善の傾向がみられる。しかしながら、依然として目標値を上回っており、達成はできていない。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、県健康福祉センター等と連携し、対策を行った。	
	課題	3つの成果指標のうち脳血管疾患の死亡比が高い状況である。その基礎疾患となっている高血圧・糖尿病・脂質異常症等で受診している人が多いことから、医療機関と連携しながら疾患の管理を支援しつつ、集団及び個人に対する事業を通じて予防に力を入れていく必要がある。 各種事業において新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、市民の心身の健康維持のためにも感染拡大防止対策を進める必要がある。	
	取組方針	健康増進計画会議を通して関係課や関係団体と現状を共有するとともに、重点領域を絞り健康づくり支援を行う。単年度で達成することは難しい状況であるが、引き続き予防対策等健康づくり支援を継続していく。 新型コロナウイルス感染拡大防止の注意喚起及び予防対策を迅速に進める。	